

## 新春法話 「回り道 寄り道あって生きる道」

明けましておめでとうございます。

本年もようそお地藏さんの寺、正光寺の初詣にお参りいただきました。

去年は、真言宗開祖弘法大師こと 空海の御生誕千二百五十年の記念年でした。当寺では記念事業として、本堂内に六地藏絵画の額六幅を奉納し、参道入り口には延命子安地藏尊石仏を造立安置しました。この機会にお地藏さんのお寺の信仰を更に深めて頂ければと思います。また、今年の五月から新型コロナウイルス感染症対策が大幅に緩和されたことで、私たちは日常生活を取り戻すこととなりました。コロナ禍の間、感染対策のもと日常生活に制限や自粛を余儀なくされました。その中で生きる道に不安を感じたり、希望を失ったりなど悲観的な厭世観をもつ人々が増えた事実がありました。

ところで「生きる道」とは何なのでしょう。道とは出発点と到達点を結ぶ線のことだと考えると、生きる道においての出発点は「この世に生まれる」ことであり、到達点は「死、この世を辞する」ことだと考えます。生から死までが生きる道であり、私たちには十人十色の生きる道がありますが、生まれてから死に至るまで、数多くの分かれ道に出会います。いくつにも分かれた道を幼い頃は親の判断によって、成長にするにつれて人の意見を参考にしながら自分の判断によって道を選択していきます。正しき道と違って進んで失敗したり、間違った道かと思っただけだったりしながら私たちは生きる道を歩みます。しかし成功し続けている道では、人は自信過剰になりやすく、失敗し続ける道では人は自信喪失に陥りやすいところがあればあります。自信過剰になると人は有頂天になり、他人の意見に耳を貸さなくなって、気が付いてみると自分が孤立していることに際悩まされる結果をもたらしめます。一方自信喪失になれば、何をやっても駄目だと思う自虐的な考え方が更に自分を苦しめ、時には自分を見失う結果をもたらします。ですから歩む道において、自信過剰や自信喪失にならないよう心掛けることが大事です。そのためには生きる道に「回り道」「寄り道」の考えを持つことが良いのではないのでしょうか。

「回り道」とは分かり易く言えば紆余曲折です。思い通りにはならない道で、順調に事が運ばず壁にぶち当たり、嫌なことや苦しいことを経験しながらも耐えて進むことによって、一つ一つの苦労が実を結び成功を修める道が「回り道」だと思います。

「寄り道」とは、目標に向かって一心不乱に信じる道を進めば息切れを起こすかもしれません。そんな時には、たまには道から外れて、道草を楽しむこと、大いに遊ぶことです。疲れた時に道から外れて息を整えられれば、客観的に自分を見つめることができるはずです。間違いに気づき、無理や限界を知ることができれば、新たな道が目の前に開かれるのではないのでしょうか。

古今東西 幸せを感じて一生をおえることができた人たちは、「回り道」と「寄り道」あつての生きる道歩んだに違いありません。歴史上の人物 例えば大河ドラマの徳川家康や朝ドラの「ブギウギ」のモデル笠置シズ子などの主人公をみても分かるように、波乱万丈あつての生きる道に私たちは興味を抱き、生きる糧を学ぶのだと思います。

「回り道」「寄り道」大いに結構。一度の人生を悔いなく生きるために無益でなく有益な道と信じましょう。ご本尊地藏菩薩が慈しみ深く私たちを見守りくださることに信心を深めていただき、今年一年が良き年になることをご祈念申し上げます。新春法話といたします。

令和六年 甲辰閏年

延命山正光寺 住職 高野 隆 晃